

第5学年 道徳科学習指導案

平成30年7月5日（木） 第5校時

- 1 主題名 良心に基づく誇りある生き方 内容項目 [D よりよく生きる喜び]
- 2 ねらい 誰もが持っている心の弱さとその弱さを乗り越えようとする心の強さについて話し合うことを通して、人間としての誇りをもって、よりよく生きようとする態度を養う。
- 教材名 「心の中のりゅう」（出典：「みんなの道徳」5年 学研教育みらい）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、小学校第5学年及び第6学年内容項目〔よりよく生きる喜び〕「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じることを深めることを意図したものである。これは、小学校段階において新たに示された内容であり、中学校の〔よりよく生きる喜び〕「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きる喜びを見いだすこと」につながっていく。

人間はよりよく生きようとする存在であり、そのために人間性をより高めようとするすばらしさをもっている。一方で、人間は決して完全なものではない。誰しもが誘惑に負けたり、安易な方向に流されたりする弱さも同時にもっている。しかし、人間は決して内在する弱さをそのままにしておく存在ではなく、弱さを羞恥として受け止め、それを乗り越え誇りを感じることを通して、生きることへの喜びを感じる。また、人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また気高い存在になる。このことが、人間としての生きる喜び、あるいは人間がもつ強さや気高さにつながる。ここでいう人間として生きる喜びとは、弱い自分を乗り越えるだけではなく、自分の良心に従って生きることであり、人間のすばらしさを感じ、よりよく生きていこうとする深い喜びである。

このような人間の強さや気高さは、第1学年及び第2学年の段階においては「美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと」、第3学年及び第4学年においては「美しいものや気高いものに感動する心をもつこと」などに関する指導でも育まれている。本内容項目でのみ示されている「人間として」という文言は、人生という広い視点をもって考えるなど中学校との関連を強く意識している。

この段階の児童は、自我が芽生え、自分自身を客観的に見つめる力も高まり、人間としてより高めたいという思いや願いをもつようになる。しかし、その一方で、様々な物があふれ、何でもそろそろ便利な環境の中で生活している児童は、快適な暮らしや何の不自由もない物の豊かさに慣れ、物事や人間の本質などの精神的な豊かさを見失いがちである。そこで、様々な障害や困難に出会う中で、自信を失い、自尊感情を損ねることがないように、挫折や弱さを乗り越え、自分の良さや可能性を自覚することで自らを奮い立たせ、目指す生き方、誇りある生き方に近づくことができるということに目を向けさせることが大切である。

指導にあたっては、自分だけが弱いのではないことに気付かせ、人間がもつ強さ、気高さについて自分自身を振り返ることで、そのよさや意義を理解できるようにすることが大切である。人間の弱さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分自身のよさや可能性を自覚させ、目指す生き方、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方につなげられるようにしていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、穏やかで素直な児童が多い。互いに思いやる気持ちももっており、異性を区別することなく行動することもでき、友達の大切さも理解している。物質的にも恵まれた環境にあり、欲しいものは簡単に手に入り便利な生活の中にいるため、自分を制することが得意ではない。手順が決まっていることや与えられた役割、好きなことは一生懸命に行うことができる。その反面、自ら判断して行動できる児童は少なく、それ以上のことには気付かないといった傾向にある。また、苦手なことに対しては「どうせやってもできないだろう」「こんなことをしても無駄だ」と弱い自分に負けてしまい努力す

る前からあきらめたり、自分の意見を持たずに強い者の意見に流されてしまったりする児童もいる。自分をより高めようと常に前向きで意欲的な児童もいるがそうでない児童との差もあり、その心の差を縮めることも学年の課題の1つである。しかし、委員会活動やたてわり活動など様々な人に触れたり、運動会の練習や日々の学校生活などで様々な体験をしたりすることを通して、年度当初に比べると「こうなりたい」「手本になりたい」という思いを持つようになり、具体的な目標を決めてコツコツと努力している児童も増えてきている。道徳の学習では、「友のしょう像画」「電池が切れるまで」「フジの新しいおびれ」の3つの教材を通して、「いのち」について向き合い、様々な角度から「いのち」の尊さについて考え、自分の生き方を見つめ直すきっかけができた。多くの児童が、生きていることの幸せを実感し、今を精一杯生きることが大切ということに気付いていた。そこで、本学習を通して、自分自身の中にある弱い心とそれを乗り越える強い心の存在に気付かせ、「豊かな生活」というのはどのような生活なのかを考えることで心の面での豊かさに気付かせ、よりよく生きる態度を養いたい。

参考：実態調査（複数回答有）

（実施日6月1日 調査人数35名）

○あなたにとって「幸せ」って何ですか（人数）

家族がいること（20） 友達がいること、遊ぶこと（11） 生きていること（7）

穏やかにくらすること、楽しく過ごせること（3） 仲良く、けんかがないこと（2）

食べ物が食べられること、家があること（3） お金があること（3）

（少数回答）

好きなものが手に入る 欲しいものが買える 好きなものに囲まれる 旅行に行ける

自分の欲望が通ったとき 思ったとおりにいくとき 好きなゲームをしているとき

○豊かな生活とは、どのような生活だと思いますか

食べるものがあること（9） 毎日楽しく暮らせる（4） 学校に行ける（4）

お金に困らない（2） 電気や水が使える（2） 家がある（2） 平和（2）

（少数回答）

みんなが仲良く暮らせる 戦争が無い 世界中が仲良しでいること 不便じゃないこと

人と人が助け合っていく 笑顔でいること 安全でいられる 犯罪がない

人生で必要なものがそろっている 好きなことができる 自由 楽しい

（3）教材の特質や活用方法について

本教材は、東日本大震災の被災地を表敬したブータン国王夫妻が福島県の小学生との交流の機会をもつ中で語りかけた「心の中のりゅう」の話を中心に、人間にとって真の喜びとは何かを追求することを通してねらいに迫るものである。

東日本大震災から8ヶ月たった2011年11月、ブータン王国夫妻が来日して日本各地を回った。3月11日の地震と津波の後、ブータンではいたるところで大勢の国民がお寺を訪れ、日本の人たちのために祈りをささげる国民の姿に深く心を動かされたという。国王夫妻は被災した相馬市の小学校を訪れた際に語った、心の中に住むりゅうについての言葉が紹介されている。「りゅうはわたしたちの心の中に住んでいる。心のりゅうをきたえ、自分のもっている感情をコントロールすることが何よりも大切だ。」と語る国王。児童には、「心の中に住んでいるりゅう」について考えさせ、人間の心に共存する弱さと強さの存在を理解し、自分の中でそれらをコントロール（心の綱引き）する大切さに気付かせたい。そして、強い心が弱い心に勝ったときの気持ちを思い起こさせ、良心の存在と人間として豊かに生きることのよさ、「よりよく生きる」自分像を描かせたい。そのために、以下の視点について話し合うことにする。

①ブータン国王の考える「豊かさ」

ここでは、ブータン国王が考える心の豊かさと、児童が考える豊かさを比較し、感じたことや思ったことを話し合わせる。日本には当たり前のようにあるコンビニや病院が近くに無いことは児童にとっては考えられないことである。物質的にも恵まれ、便利な生活に慣れてしまっている児童にとっては、ブータン国王の考える豊かさが他人事のように思えるであろう。国王が求める「豊かさ」とは、心の豊かさであることに気づかせ、ブータンの人々の心の大きさや豊かな人間性をおさえる。

②ブータン国王の言葉にある「心の中のりゅう」

ここでは、心の中に住んでいるりゅうについて考え、人間の中にある弱さ（くもった心）と強さ（澄

んだ心)を話し合わせる。「りゅうを鍛えること」は自分の心をコントロールすることで、澄んだ心が勝ったときの喜びやさわやかな気持ちを思い起こさせ、弱さを乗り越えるためには澄んだ心が大切なことを明らかにする。

③人間にとって豊かに生きるとはどのようなことなのか

ここでは、②の内容をふまえ、「人間として豊かな生活とはどのような生活なのか」について議論し、自分なりの考えをもたせる。その際に、まず小グループで話し合わせることで考え方の交流をさせ、全体で共有することでさらに深めさせ、よりよく生きる自分像へとつなげていきたい。

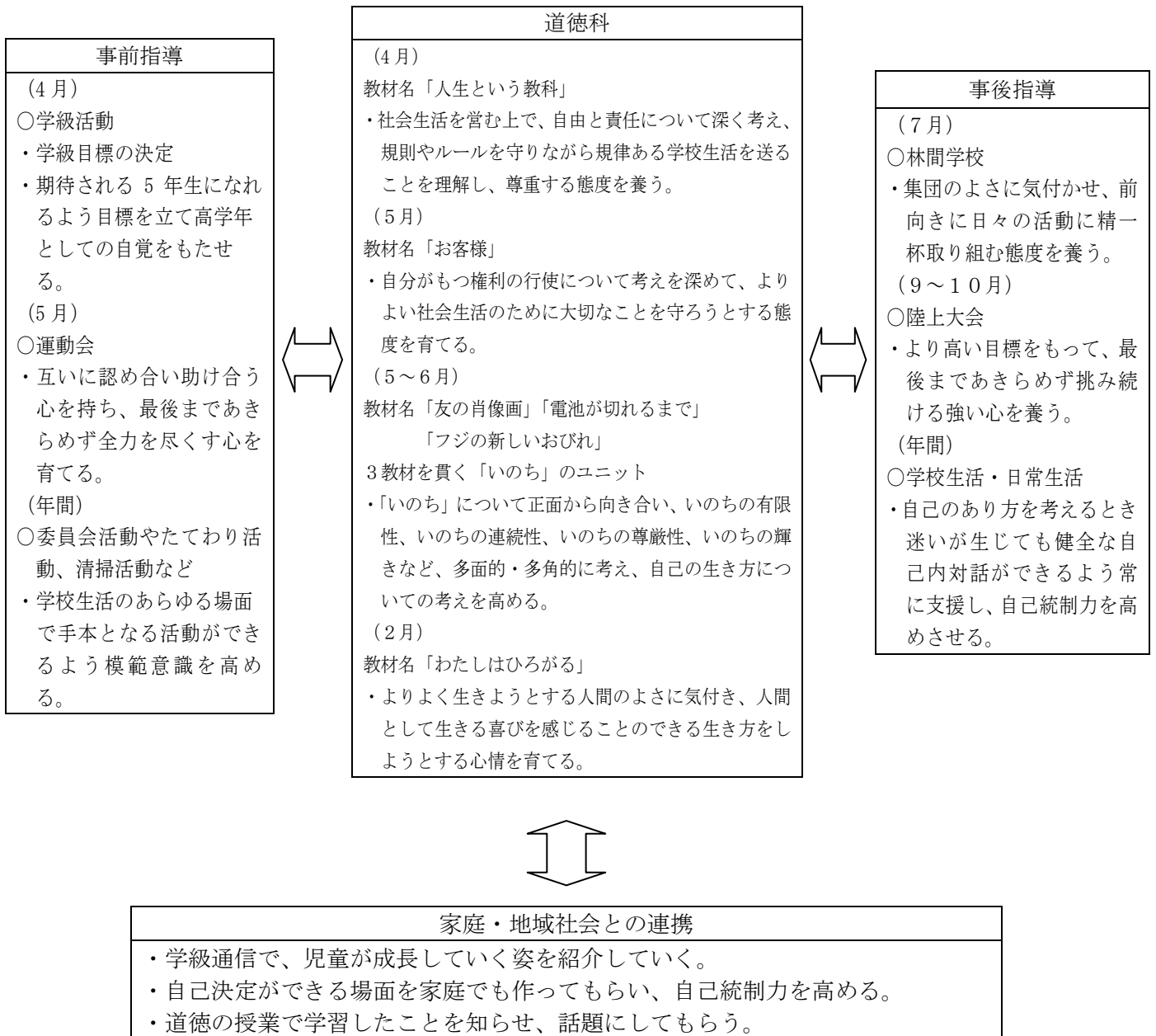
以上のことから、本主題を設定し、ねらいに迫りたい。

4 学習指導過程

段落	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価の観点	時間
導入	<p>1 ブータン王国の概要を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブータン王国の国土や自然、人々の暮らしをどう思うか。 ・ブータンの国の人々の幸福度をを知る。 <p>2 本時の課題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が多い ・日本より小さくて人口も少ない ・不便 ・不便な生活なのになぜ幸せだと思えるのか知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブータン王国の国土や自然、人々のくらしについて教科書の写真を提示し、ブータン王国に対する関心を高める。 ○自分たちの生活と比べるとはるかに不便であるにも関わらず、なぜブータン王国の人々の幸福度は世界で1番高いのか投げかけ、本時の課題につなげる。 	5
人間にとって「豊かに生きる」とは、どのようなことだろう。				
展開	<p>3 教材について知る。</p>		○場面絵やカードなどを用いて登場人物や条件・状況、読む観点をおさえる。	7
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物 ブータン国王（主人公） ブータンの国の人々 ・条件・状況 <ul style="list-style-type: none"> ○日本で東日本大震災が起きた日の夜、ブータンの国の大勢の人々が日本のために祈りをささげた。 ○ブータン国王は心の豊かさに重点を置いて、国民の幸せを追求してきた。 ○ブータン国王が来日し、被災した福島県相馬市の小学校で語った国王の言葉がニュースで紹介される。 </div>				
	<p>4 教材「心の中のりゅう」の読み聞かせを聞く。</p>		○課題に迫るキーワードなどに留意して聞かせるようにする。	
	<p>5 学習課題について話し合う。</p> <p>①ブータン国王が考える「豊かさ」についてどう思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・便利なほうがいい ・病院がないのは困る ・欲しいものが買えない ・すごいと思う ・自分にはできない ・心が満たされていると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前にとった意識調査から、豊かさに関係する部分を抜き出し、便利な生活に慣れてしまい、物質的な豊かさを求める自分たちの生活と対比させることで、ブータンの人々の心の大きさ、心の豊かさに着目させる。 	25

	<p>②ブータン国王の言葉にある「心の中のりゅう」について考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くもった心、澄んだ心にはどのようなものがありますか。 ・澄んだ心がくもった心に勝つために大切なことは何でしょう。 <p>◎自分の心に澄んだ心とくもった心が生じたときのことを考え、どのように2つの心をコントロールしたのか振り返りましょう。</p> <p>③人間にとって「豊かに生きる」とはどのようなことなのか考えましょう。</p>	<p>くもった心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怠けること ・がまんできないこと ・あきらめること など <p>澄んだ心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挑戦すること ・くじけないこと ・相手を思うこと など <ul style="list-style-type: none"> ・弱さを乗り越えること ・自分の心を強くもつこと ・後悔しないように一生懸命やること ・正しい判断をすること <ul style="list-style-type: none"> ・なわとびで跳べなかった時、練習がいやになってしまったが、あきらめずにやったら跳べるようになって嬉しかった。 など <ul style="list-style-type: none"> ・弱さを乗り越えること ・心の豊かさを求めること ・心の龍を成長させること ・気持ちが充実していること など 	<ul style="list-style-type: none"> ○「心の中のりゅう」とは、自分をよりよく成長させようとする心の働きであり、自分の中にある弱さを受け止め、その弱さを乗り越える強い心も存在していることに気付かせる。 ○弱さと強さは常に心の中にあり、人としてどうあるべきかを考え、コントロールすることが大切であることをおさえる。 ○弱さに引きずられたままでいても自分が成長できないことや後悔が残ってしまうことを受け止め、それを乗り越えていく強さをもつことが、質の高い心の豊かさであり、よりよい生き方につながることを理解させる。 ○自分の経験と重ねることで、より具体的なものとして、児童一人一人に理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○課題について個人で考えた後、小グループで考え議論させてから、全体に広げ、多面的・多角的な考えにふれさせ、より考えを深めさせる。 ○「心の中のりゅう」の話を受け止めて、人間にとって豊かな生活とは、物質的な豊かさではなく、心の豊かさにあることをおさえ、自分自身をコントロールしながら成長していくことが、よりよい生き方にもつながっていくと実感させる。 ☆「豊かな生活」についての考え方の交流を深め、自分なりに捉えている。 (発言、観察、道徳ノート) 	
	<p>6 よりよく生きるための「自分像」を考え、振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習から、どんな自分になりたいか考えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱さを乗り越えられる自分 ・人として恥じない自分 ・感情がコントロールできる自分 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよく生きようとする肯定的な自己像を描き、誇りある生き方につなげる。 	5
終末	7 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ○価値に関する印象を深め、道徳的実践意欲への位置づけを図る。 	3

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

〈物事を多面的・多角的に考えている様子〉

- ・「豊かな生活」についての考え方の交流を深め、話し合いを通して自分なりに捉えている。

〈道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めていこうとする様子〉

- ・弱さを乗り越え、良心に従って力強く生けるように自問を深め、自己統制していこうとする意識を高めている。

心の中のりゅう

ブータン王国



- ・ヒマヤラの秘境にある
 - ・九州ほどの面積
 - ・人口八十万 農業国
 - ・病院やコンビニも近くにない
- ← 国民の幸福度は世界一

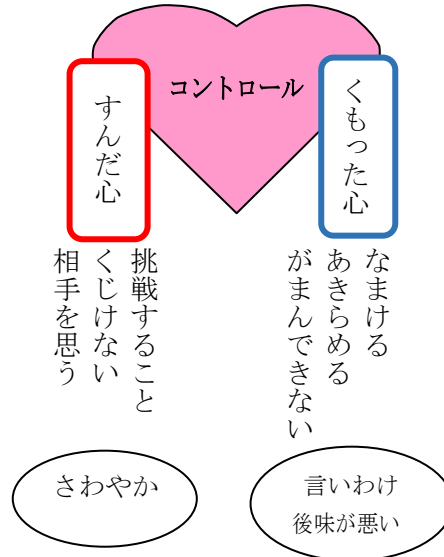
人間にとって「豊かに生きる」とは、どのようなことだろう。

ブータン国王が考える「豊かさ」



自分たちが考える「豊かさ」

心の中のりゅう
自分の心を見つける



すんだ心がくもった心に勝つために大切なこと

弱さを乗り越えること

自分の心を強く持つこと

後悔しないように一生懸命やること

正しい判断をすること

「豊かに生きる」とは

--	--	--

--	--	--

どんな自分になりたい？